

令和4年度第2回小牧市小中学校部活動検討委員会 会議録

1 開催日時	令和4年12月26日（月） 午後3時30分から
2 開催場所	小牧市役所 東庁舎 大会議室
3 出席	鈴木副委員長、前原委員、水野委員、岩井委員、瀬尾委員、小澤委員、合田委員、新實委員、服部委員、坂下委員、福岡委員
4 欠席	加藤委員長、和田委員
5 事務局	《小牧市スポーツ協会》中谷ジュニア育成指導員、舟橋係長 《こまき市民文化財団》 《文化・スポーツ課》藤田課長、丸藤係長、永田主事 《学校教育課》安部課長、采女管理指導主事、山下係長、安達主任
6 傍聴者	0人
7 議題	今後の「部活動のあり方の検討」の進め方について

＜開会 午後3時30分＞

1 開会

安部課長）

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より「第2回小牧市小中学校部活動検討委員会」を開会いたします。

私は、司会を務めさせていただきます学校教育課長の安部です。よろしくお願いいたします。

【資料確認】

始めに、資料の確認をさせていただきます。

本日配布させていただきました資料は

- ・次第
- ・資料1 ニュース記事（国の方向性）
- ・資料2 部活動検討進め方の見直しについて
- ・座席表

でございます。不足などございませんでしょうか。

委員）

（なし。）

安部課長)

本委員会は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき開催するものでございます。そのため、個人が特定可能な議題などを除き、原則公開として開催させていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

委員)

異議なし。

安部課長)

本日、この会議の傍聴者は0人です。加藤委員、和田委員から所用により欠席する旨の連絡をいただいております。

(1) 挨拶

安部課長)

開会にあたりまして、采女管理指導主事からご挨拶申し上げます。

采女管理指導主事)

学校教育課の采女です。市内小中学校では、23日(金)に終業式が行われ、1年で最も長く、教育活動の実りを収穫する学期を閉じました。

また、24日には名古屋では8年ぶりに10センチ以上の積雪を観測しました。鉄道が乱れ、高速道路の一部も通行止めになるなど、我々の生活にも影響をもたらしました。公園では、大きな雪だるまやかまくらをつくったり、雪を投げ合って遊んでいたりする子どもたちを見かけました。今年のクリスマスは、サンタクロースが素敵なプレゼントを子どもたちにしてくれたと感じました。

さて、文科省は12月16日、「部活動の地域移行についての見直し」を発表しました。それまで、「改革集中期間」として、令和7年度までに完全移行するとしていたスケジュールを「改革推進期間」に改め、「令和7年度までの目標にこだわることなく、できるだけ早期に移行を完了してほしい」としました。

これを受け、12月19日の県主催の「部活動の地域移行に向けた説明会」においても同様の説明があり、当面、国の動向を注視する旨の説明がありました。詳細については、会の中で報告させていただきます。

本市においても、第1回の検討委員会でお示しした内容について、一部見直しをしなければならない状況になりました。しかしながら、事務局としては、将来において、子どもたちに有為なプレゼントをする、そのための準備を粛々と進めてまいりたいと考えています。

今日お集まりの皆様には、今後の部活動の地域移行の方向性について、改めて議論していただき、ご意見を頂戴したいと考えています。よろしくお願いいたします。

安部課長)

それでは、ここからの取り回しにつきましては、本日、加藤委員長が欠席ですので、鈴木副委員長にお願いしたいと思います。副委員長、よろしくお願いいたします。

2 報告

副委員長)

それでは、報告「現時点での国の方向性について」及び「愛知県部活動の地域移行に向けた説明会及び意見交換会の内容」について、事務局から説明を求めます。

山下係長)

資料1をご覧ください。

12月17日(土)の新聞記事にありますとおり、「中学校の休日の部活動を地域団体や民間事業者にゆだねる地域移行について、2025年度(令和7年度)末としてきた達成目標にこだわらず、自治体の事情に応じて移行期間を柔軟に検討し、国の目標を順守しなくても構わない」と文部科学省は自治体に配慮する発信をしました。

この国の動向により、12月19日(月)に開催されました「愛知県部活動の地域移行に向けた説明会及び意見交換会」でも、愛知県及び愛知県教育委員会より「部活動の地域移行に向けた推進計画」は未確定情報が多いため、策定中となっているとのことでした。報告は以上です。

3 議題

今後の「部活動のあり方の検討」の進め方について

副委員長)

それでは、議題 今後の「部活動のあり方の検討」の進め方について、事務局から説明を求めます。

山下係長)

資料2をご覧ください。

第1回小牧市小中学校部活動検討委員会では「スポーツ庁・文化庁の提言を受け、令和5年度から令和7年度末を目途に、中学校の休日部活動から段階的に地域移行する」と説明をし、検討をいただきました。しかし、国が「令和5年度は地域の実情を詳しく把握するための調査研究を行う」と対応の見直しを表明したため、本市においても進め方を再考し、スケジュールの見直しを行うこととしました。

第1回小牧市小中学校部活動検討委員会では、委員の皆様から多くの課題をいただき、研究会を11月28日及び12月20日に開催し課題について検討いたしましたが、国や県の動向が不透明であるため、課題解決に至らず、今後の「部活動のあり方の検討」の進め方について見直しをすることといたしました。

「3 見直し後の進め方」をご覧ください。本市において、どのように部活動を地域移行するかを慎重に検討していくため、まず、国・県の動向及び近隣市町村の状況を把握します。また、市内小中学校の教員・外部指導者・保護者・生徒・関係団体の部活動に対する考えや現状を確認するとともに、本市における部活動の望ましいあり方を模索します。そして、この検討委員会にて今後の部活動のあり方について検討を進めてまいります。

つきましては、第1回小牧市小中学校部活動検討委員会でご説明いたしました「小牧市が地域部活動の運営主体となって各中学校地域部活動運営委員会を新たに組織し、運営委員会に指導者を派遣する」案につきましては見直しをし、地域部活動としてではなく学校部活動として活動しながら、少子化対策については喫緊の課題でありますので、まずは学校部活動連携についてモデル校を中心に模索していきたいと考えます。

また、先ほど申し上げたとおり、市内小中学校の教員・外部指導者・保護者・生徒・関係団体の部活動に対する考えや現状も確認してまいりたいと考えております。

さて、今後の予定を申し上げます。PTA連絡協議会への説明を1月20日に行い、教育委員会だよりにて保護者説明を4月に行います。

また、この検討委員会は令和5年度も引き続き開催を予定しております。

副委員長)

事務局から説明がありました。今後の進め方について、ご意見・ご質問はありますか。

岩井委員)

説明していただいた一番最後のところですが、前回の、運営委員会を立ち上げる案については見直すということでしたが、具体的には、学校単独では部活として成り立たない場合や自身の学校にその部活動がない場合に合同で行うことを中心に進めていくという解釈でよろしいですか。

山下係長)

第1回の検討委員会において示しましたモデル校の案についてはそのままとし、まずは学校部活動における連携を行いながら、モデル校を中心に今後について検討していきたいと考えております。

岩井委員)

前回、現在、生徒が少なくなってもやりたくてもできないから近隣の中学校と合同で、という話で、方法の一つとして、委員のどなたかからジュニア育成を活用してはどうかという意見があったかと思えます。ジュニア育成という言葉に前回も引っ掛かりがあり、せっかく皆さんお見えですので、ジュニア育成の立ち上がりから私、関わっていますので、一度その辺の経緯を聞いていただきたいです。それが分からないと育成自体がどういう風にできあがってどのようになっているかというのが、競技団体によっても違うのです、競技によっても違うのですが、その本質的なところをもし見誤って、ジュニア育成が誤った形で使われるようになると、現在の活動が崩壊するような、ジュニア育成自体が崩壊する可能性もあるので、少しお聞きください。

ジュニア育成がスタートしたのが30年ほど前、平成8年ですが、今と同じでこのようなスポーツをやりたいが部活動にはないとか、いろいろなことやりたい児童生徒がいる、それを市でできないかというのがスタートでした。それは、チームというよりはそのスポーツ自体を体験する、それも学区制でなく広域で、市内全体で集まってスポーツを楽しむ、指導を受ける、そういう大まかな、大きな理念がありました。また、その方針は、小牧の団体、今のスポーツ協会に加盟している競技団体が主管して、競技団体中心に進めていこうと。なぜそれがあったかというと、部活動検討委員会も運営委員会を

立ち上げてとありましたが、ジュニア育成も指導者や指導者のグループの暴走を止める、統制を取るために競技団体が主管しようということです。

市内広域対象ですけれども、第2・第4土曜日を市内一斉に部活動を止めましょうと。これは、ジュニア育成の活動を成立させるために第2・第4土曜日は自粛してやらないということになったわけです。これは生徒が第2・第4土曜日に行きたくても部活動に拘束されて行けなくなったら困ると。もうひとつ、教員も含めた、競技団体にも教員がたくさんいますので、指導者もそこで一堂に集まって指導力の向上を図ろうと。だから子どもも指導者もみんなが第2・第4土曜日に集まれるようにという、そのための第2・第4土曜日の縛りだったのです。3つ目には、チームじゃないよと。スキルアップだよと。楽しむところだよと。個々の能力の育成だよと。普及育成をするところだよという大きな柱がありました。

現実的にこの立ち上げの時に、サッカーの例なのでですけど、その当時に一つだけ部活動とは違うチームがありました。そのチームが非常に関心を示して、市がバックアップしてくれる、活動場所を確保してくれる、そして指導者への謝金に対しても補助がある。だったら自分たちがそこにそっくり乗っかってチームとしてやればできるじゃないかとそんな意図があったようで、僕も何度かそこで激論をしまして、チームじゃないのだよと、そういう市内全体の広域の育成で競技団体としてやっていくのだよと話をして、それで合意をして一緒にやりましょうと言ってスタートしたのですが、1回目からその組織の人たちは一人も来ませんでした。

要は、チームにするとどうしても指導者、監督なりの私物化とか、勝利を意識しすぎて暴走してくる、そういう傾向があるということはしっかり頭に入れておかないと、これは部活動も同じことであって、もし、ジュニア育成に合同チームをジュニア育成としてそこでやりましょうなんてなると、それがチーム化すれば、今まで私たちが30年近くやってきたことがゼロになってしまう。それだけはやっぱり避けたいという気持ちがあって、育成の活動を活用してもらうことはいいけれども、今ある活動をなくしてしまうようなものにだけは絶対してほしくないというそういう私としての思いがあります。

そんなようなことがありまして、過去にもサッカー協会自体にもJSCCといってジュニアサッカークラブというのをつくったことがあるのです。市民大会には出ないよ、土俵が違うのだよ、簡単に言えばトレーニングセンターみたいな立場で、選抜チームとの試合や大会や招待試合でやろうよと言ったのですが、やはりこれも指導者同士のぶつかり合いがあって、途中で崩壊しました。

そのずっと前には、違う競技で小牧の選抜チームを作って、それが他の小中学校が参加する市民体育大会に出てきて、そこで優勝して俺らが勝った、強いぞと言うチームがあって、そういう馬鹿げたことも過去にはありました。そういうことを一切振り切って、競技団体が一つになって、その中でそれぞれ住み分けをして、子どもたちにスポーツに親しませて、より能力があってよりやりたい子についてはそういう場所でやらせてあげるといって、そういう意見を持ってやっていかないと、また、せっかくやったことが崩壊してしまうのではないかなということを感じてお話をさせていただきました。

ですので、育成と言うことは非常に簡単かもしれないですが、第2・第4土曜日があるから、公的なバックアップがあるから、そこへ乗せればいいのではないかっていうただ単にそれだけで考えられると不安だという、そういう思いがあってお話をさせていただきました。

副委員長)

ありがとうございました。ジュニア育成の経緯についてお話をいただきました。関連で、何かございますか。

(発言なし)

なければ、元に戻って見直しについて意見ございますか。

瀬尾委員)

モデル校が小牧中と桃陵中が担うということです。近隣の中学校と合同で地域連携を進めていく中でどういう課題があるのか、どういう形で連携していくのが望ましいのか考えていくということだと思いますが、岩井委員から話があったようにジュニア育成とは趣旨が違う、部活動なのでこちらはチームでということになる。それによって大会への参加の仕方とか活動場所、指導者は両方の学校から出てくるのか、例えば小牧中において小牧西中に部活が無い柔道・水泳・バドミントンをやりたい場合、やりたい子が小牧中に来ることは可能だとは思いますが、小牧西中にその部活が無いということは顧問の先生もいないわけで、学校間でどのような話し合いをすればいいのか、どのように活動をすればいいのか、知恵があれば教えていただきたいです。

副委員長)

関連ですとか、大会のこともできましたけど、そのあたりお願いします。

坂下委員)

実際に子ども達の学びの場を保障するといった場合に、その学校に部活動が無い場合にどうしたらいいのか切実な悩みだと思うので、そうした中、このモデル校の中でやれる事に取り組みながら一つの例として出していくことには意味があると思います。

副委員長)

本校もモデル校になっています。東部地区は生徒数が減っていて、部の数も減っている学校がある、それで子ども達にはこの種目をやりたいというニーズがあると聞いていますので、来年度はモデル校として緩やかにスタートして、指導者の問題とか場所の問題はあるんですが、今こちらが掴んでいるところから緩やかにスタートしていこうと思っています。

副委員長)

瀬尾委員の発言について事務局から何かありますか。

采女管理指導主事)

見直しをするという表明からまだ10日も経っていません。我々自身も今後議論が必要だと考えています。この検討委員会の中で様々な課題を出していただきたいと思います。

先ほど、岩井委員、瀬尾委員、坂下委員から様々な意見を承りました。

鈴木副委員長からはご自身の学校の中で実際に緩やかにスタートしていこうということでした。モデル校でそれぞれ進めていただきながら、課題を探るところから、そしてその課題に向けて解決方法を探ることから、地道にスタートして参りたいと考えています。

副委員長)

他にご意見、ご質問はありますか。

前原委員)

ジュニア育成の話もありました。学校部活動と地域部活動の言葉の定義は、どう考えているのか。今の話でサンプルとして学校部活動を考えていこう、これが地域部活動にどうつながってくるのか、それを教えてほしいということと、もう早速1月20日と4月に説明とある。PTA連絡協議会とか保護者に何を説明するか、もう明確になっているのか、それともこれから検討するのか。それとその場で親や団体の意見を聞くことになるのか、そのへんの見通しも教えてほしいです。

副委員長)

関連で何かありますか。(発言なし)

山下係長)

ご質問について回答させていただきます。

学校部活動は、今の平日と休日の部活動をそのまま続けるということで、地域部活動は、新たに立ち上げた委員会などに指導者の派遣をお願いする形で教員は指導者にはならないことを目指す形です。今回、地域部活動は見直すこととし、学校部活動における連携という案を出させていただきました。

次に、1月20日のPTA、4月の教育委員会だよりの説明について、です。新聞等で部活動の地域移行に関する提言等がスポーツ庁や文化庁から出されたことは報道されておりますので、小牧市として今どのように動いているのかという報告をさせていただく形です。

教員・外部指導者などの意見をどのように確認していくのかということですが、この委員会の中でも意見をいただいています。モデル校など連携を進めながらそれぞれの学校や関係者の意見を都度うかがっていきたいですが、まだ具体的な案はございません。

前原委員)

地域の方に協力いただいて、子ども達に学びの場を提供するというのはいいですが、結局、力量の優れた、コーチングの実績をお持ちの方というのは、岩井委員の話で、どうしても強いチームを作るとなる、逆に言えばそうでなければ私はいいわとなる。名古屋経済大学には強化部活動というのがあって、そういうような人に力を貸してもらう手もあります。

合田委員)

学校部活動の連携と聞いた時に、教員の負担が増えるという想像を少ししました。部

活動の地域活動は、子どものためという事もありますが、これを進めることで教員の負担を少しでも減らせられたらという趣旨もあったと思います。来年度については、学校部活動の連携ということで、先ほどの例で、小牧中にバドミントン部があって、バドミントン部の無い中学校の子たちが小牧中に来た時に、外部の指導者が手伝ってくれるならスムーズに行くかもしれないですが、教員だけだと単純に来年度は先生達が忙しくなるのではないかと想像しました。

この前、大久保指導主事がモデル校ということで小牧中に説明しに来てくださった時に、不安を感じている教員もやはり何人かいましたので、進めていく必要性の中で先生方の負担とかも取組の中で考えていきたいと思いました。

今日うかがって、連携でやるということですので、学校間のコミュニケーションが必要だと感じました。例えば小牧中と小牧西中でやるとなった場合に、その負担を分けられるようにコンセンサスを得ないといけませんし、もし教員でやるとすればバドミントン部の小牧中の顧問だけでなく、同じように小牧西中からも先生が来てくださると、子ども達がプラスになるだけでなく、先生達も負担を分け合う仕組みになると思うので、ただ子ども達が行くだけでなく先生がどう行き来するか、仕組みを考えていくとよいと思います。

副委員長)

本校もモデル校で、一朝一夕に行くとは思っていませんが、そういうのを探っていきたいと思っています。

岩井委員)

今までの意見を伺って感じたことですが、合同部活動へのシフトでということであっても、地域の運営委員会が必要ではないかと感じました。本来、先生方の負担軽減をということもあったはずですので、負担が増えてしまうようでは本末転倒です。それを解決するための地域の部活動運営委員会です。

あと日経新聞にも載っていますが、目標を遵守しなくてもいいと言っているだけ、7年までやれと言ったのを、もうちょっとかかってもいいよと言っているだけです。ということは、いずれはやりなさいよと言っているように解釈できます。そのへんの解釈は今後どうなっていくかは分かりませんが、そういうことを感じました。

副委員長)

他にご意見ご質問はありますか。

福岡委員)

国の方針とか小牧の方針とか分からないままの発言で申し訳ありませんが、まずは子どもの立場を一番に考えていかなければならない、合同部活動であるということは、例えば部活動が無い子が来るわけで、何となく入れてもらいたいな、そういう感覚が軌道に乗って何年か後にはそういうイメージが無くなるかもしれませんが、始まって数年は子ども達の間でそういう意識があると、そこまでして部活をやるかなとか、親にしても子にしてもよその学校に行ってもやるといイメージがあるといけませんので、そもそも部活動という名称がどこにも入っている、学校とか地域とか合同とか。どこの部活動が

どうなっているのか区別がつきにくい。部活動という名前を使わないといけないのか、もうこの際、新しいイメージのネーミングはないのか、区別しやすい名前はないのかと思います。既存の部活動で合同でしなくていいものもあります。それとの差は何か、子ども達の立場で考えると、そのあたりも議論していただきたい。

副委員長)

他にご意見ご質問はありますか。(発言なし)

様々なご意見をありがとうございました。事務局の提案のとおり、基本的に小牧においては学校部活動の学校間の連携をモデル校において緩やかに進めるということで、ここでご確認してよろしいでしょうか。

(異議なし。)

ありがとうございました。本日の協議事項は以上です。

4 その他

副委員長)

それでは、4 その他 ということで、事務局お願いします。

安部課長)

令和5年度も開催予定ですので、具体的に決まりましたらまたご連絡させていただきます。よろしくお願いいたします。

副委員長)

次第は以上ですので、事務局にお返しします。

安部課長)

委員の皆様、議事進行にご協力くださり、ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、第1回小牧市小中学校部活動検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

<終了>